



「学級目標」づくりのポイント

文 | toshi
イラスト | 秋野 純子

年度末の今、一年間のしめくくりを終え、ほっと一息つかれていることでしょう。そして、新年度に向けて、新たな抱負を抱かれている方もいるでしょう。

今回は、新学期に向けて、「学級目標」(個人の目標も含む)の設定について、その意義や設定の仕方、留意点などについて考えてみたいと思います。

○覚えやすい学級目標に

そもそも、学級目標(個人目標)はなぜ必要なのでしょう。目標が単なるお題目なら、何の役割も果たしません。そうではなく、子どもたちが目指すべきところをしっかりと意識して、努力したり自分の成長をふり返ったりするのであれば、目標は学級経営において大変有効に機能します。

したがって、学級目標の設定にあつ

ては、その目標が常に子どもたちの念頭におかれるようにしたいものです。「目標は？」と聞かれ、「さあ、何だったっけ？」というようでは困ります。

そうならないために、目標は覚えやすいものであることが第一です。学級目標は三〜四つくらい設定することが多いかと思いますが、これは覚えやすさを重視してのことと言えます。

各目標の頭の文字をとって一つの言葉にしてもよいでしょう。例えば私は、学校がある地域が「たけのこ」の産地ということから、話し合いの中で子どもたちの意見を拾いながら、目標を「たすけ合おう。はじめをつけよう。のびのび遊ぼう。ことば遣いに気をつけよう」の四つに整理しました。幸い賛意を得て、これに決定しました。このうちの「助け合おう」と関連しますが、最初のころは「ぼくが落とした消しゴムをAさんが拾ってくれた」くらいの発言しかなかった子が、「Bさんの係と活動の日程が重なったから調整しようと思ったら、Bさんがゆずってくれたよ。だからぼくも、別のところではゆずったよ」と言ってくるようになります。このときは、その目標の意味するところに、大きな成長が感じられたものでした。

また、日々の指導で、「あつ、Cさんが今言ったことは、そのまま目標の『はじめをつけよう』につながるね。うれし

子どもと動き回れる。子どもと感覚がびったり合う。

それは子どもたちにとって最大の魅力。

「さあ！その若さという武器を最大限発揮しよう」

toshi 先生から新米先生へのエールです。

< toshi 先生プロフィール >

子どもたちと存分に遊んだ新任時代。日々子どもたちの思考の筋道を大切に、授業で子どもをどう生かすかを考える一方で、学級経営や児童理解のあり方に頭を悩ませた修行時代。子ども第一の学校経営を考えてきた校長時代。35年の教員生活を経て、現在は小学校の初任者指導にあたっている。「ある退職校長の想い」「小学校初任者のホームページ」でブログを執筆中。

いなあ」などと言えば、目標は子どもたちの意識の中に強く位置づきます。

○学級目標はしばらくしてから決める

次に学級目標の立て方ですが、教師と子どもたちがよく話し合った上で、無理のないものにするのが肝心です。教師の一方的な押しつけも、子どもたちに全てゆだねてしまうのも、どちらもよくありません。教師の願いが子どもたちの想いと重なり調和する必要があります。

ですので、学級目標はしばらくしてから設定するとよいでしょう。新学期がスタートしてすぐでは、まだ子どもたちの実態をつかめていないですし、子ども同士もお互いの気心がわかり合えていないからです。

どの学校でも学級経営計画を作成して提出すると思いますが、その時期は五月の終わりが多いいのではないのでしょうか。これは、学級目標の設定がそのころがよいとされていることも関係しています。

最初のころは、「活気ある（あるいは落ち着いた）雰囲気である」「男女の仲がよい」「集団での遊びを好む」など、学級の傾向の把握に努めます。そのようにしながら、価値ある言動に対しては大切に称賛・受容の言葉かけをします。反対に望ましくない言動は、しっかりと論

します。そうすれば、担任の願いや大切にしていて考える方が自然と子どもたちの心の中に浸透していきます。

○子どもの自発的な目標設定が理想

担任からのほたらきかけは当然必要ですが、子どもたちが自発的に目標を設定しようという意識をもつようにしたいものです。そうすることによって、無理がなく、ちゃんと努力すれば達成できる現実的な目標を決めることができるはずですよ。子どもたちが「自分たちで目標を設定した」という気もちをもちながら努力していけば、担任の願いや願いも自ずと具現化されていくことでしょう。

○さらに高い目標を再設定しよう

そして、もう一つ。目標を達成したと感じたときは、どんどん高い目標に変えていきましょう。よりレベルの高いものに設定し直せば、子どもたちもさらなる目標の達成に意欲を燃やすことができます。また、一つの目標を成し遂げた達成感から、次の目標も常に意識しながら生活するようになります。

目標をふり返る時期は各学期の初めが多いと思いますが、学級の様子を見て、臨機応変に考えていきましょう。

○個人目標は個々の様子に合わせて

最後になりましたが、学級目標とともに、一人ひとりの目標づくりも大切にしたいものです。個人目標は個々の力を伸ばすために、大きな役割を果たすものですが、子どもによってはそれにとらわれることなく、自由に設定させたほうがよいケースもあります。目標が低すぎたり、反対に担任の目から見て達成するのが困難だと感じたりした場合には子ども任せにせず、担任がその子の実態を踏まえてアドバイスをしてあげることもとても重要です。

個人目標をしっかりと定め、学級の子ども一人ひとりがもてる力を存分に発揮できる学級目標を、よく話し合ってから設定できればよいですね。

